

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果について

白山市教育委員会

平成30年度の全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。
市教育委員会では、本調査の結果を公表することで、地域の皆様に本市の児童生徒の現状を理解していただき、学校・家庭・地域・行政が連携し、児童生徒の健全な育成を図っていきたいと考えております。今後とも、ご理解とご協力をお願いします。

1 実施日・調査内容等について

(1) 実施日 平成30年4月17日(火)

(2) 調査内容等

①教科に関する調査

小学校第6学年：国語A、国語B、算数A、算数B、理科
中学校第3学年：国語A、国語B、数学A、数学B、理科

A：主として「知識」に関する問題を中心とした内容
(身につけておくべき基本的な内容)
B：主として「活用」に関する問題を中心とした内容
(実生活での知識・技能の活用)

②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

小学校第6学年、中学校第3学年

2 小学校（教科）結果について
 (1) 教科に関する調査の状況

区 分	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
白山市 (県差)	74 (-2)	59 (-2)	67 (-1)	56 (-3)	64 (-2)
石川県	76	61	68	59	66
全 国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

国語 A、国語 B、算数 A、算数 B、理科とも、県の正答率をやや下回っており、基礎・基本の定着および活用力の育成には課題がみられる。

(2) 各教科の分析 (○：良好なもの △：課題となるもの)

国語 A (知識)	国語 B (活用)
<p>○日常生活で使われる慣用句の意味を理解し、使うこと。</p> <p>△文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書くこと。</p> <p>△相手や場面に応じて適切に敬語を使うこと。</p>	<p>○話し合いの参加者として、質問の意図を捉えること。</p> <p>△目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くこと。</p> <p>△話し手の意図を捉えながら聞き自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。</p>
算数 A (知識)	算数 B (活用)
<p>○角の大きさを理解すること。</p> <p>△円周率の意味について理解すること。</p> <p>△単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解すること。</p>	<p>○合同な図形において、条件に合う図形を見いだすこと。</p> <p>△複数のグラフから読み取ることができることを、適切に判断すること。</p> <p>△グラフのどこに着目したかについての解釈を記述すること。</p>
理科	
<p>○堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解すること。</p> <p>△実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述すること。</p> <p>△実験結果から言えることについて、問いに合った内容に改善し記述すること。</p>	

3 中学校（教科）結果について
 (1) 教科に関する調査の状況

区 分	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
白山市 (県差)	78 (-1)	63 (-2)	69 (-2)	50 (-2)	71 (+0)
石川県	79	65	71	52	71
全 国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

国語 A、国語 B、数学 A、数学 Bとも、県の正答率をやや下回っており、基礎・基本の定着および活用力の育成には課題がみられる。理科は、県の正答率と同等であり、おおむね良好な結果と言える。

(2) 各教科の分析 (○：良好なもの △：課題となるもの)

国語 A (知識)	国語 B (活用)
○文脈に即して漢字を正しく読むこと。 △目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くこと。 △文章の展開に即して情報を整理し内容を捉えること。	○話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問すること。 △目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと。 △文章とグラフの関係を考えながら内容を捉えること。
数学 A (知識)	数学 B (活用)
○数直線上に示された負の整数を読み取ること。 △一次関数の意味を理解すること。 △多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解すること。	○問題場面における考察の対象を明確に捉えること。 △計算例を解釈し、数学的な表現を用いて説明すること。 △必要な情報を選択し、的確に処理すること。
理科	
○空気中を伝わる音の速さに関する知識を活用し、身近な事例について考えること。 ○蒸散の意味を理解すること。 △蒸散と湿度に関する知識を活用し、湿度が高くなる原因について記述すること。	

4 小学校、中学校 質問紙調査 (○:良好なもの △:課題となるもの)

小学校質問紙調査(62項目)、中学校質問紙調査(59項目)の調査結果における、主な良好なものとは課題となるもの。

- 朝食を毎日食べている小中学生の割合が高い。
- 普段(月～金曜日)の1日あたりの勉強時間が、1時間以上である小学生の割合が高い。
- 図書館を利用する小中学生の割合が高い。
- 理科の勉強が好きな中学生の割合が高い。
- 地域の行事に参加している小中学生の割合が高い。
- 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事を話す中学生の割合が高い。
- △家で、学校の授業の予習・復習をしている中学生の割合が低い。
- △放課後にテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりする小学生の割合が高い。
- △地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある小中学生の割合が低い。
- △将来の夢や目標を持っている小中学生の割合が低い。

5 改善策

学校における具体的な取組

(1) 確かな学力の定着に向けた授業づくりの推進

- ◎「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
 - ・子どもがわくわくし、自ら学びたくなる導入場面づくり
 - ・育みたい資質・能力にぴったりで、子どもがやってみたい！確かめてみたい！と思う課題づくり
 - ・目的と必要感のある交流場面づくり
 - ・「できた！」「わかった！」の声があふれる終末場面づくり

◎知識・技能の確実な習得のための繰り返し学習の重視

- ・できるまでやりきることの重視
- ・検証の場の設定
- ・組織的・継続的個別指導の重視

(2) 学びを支える学習基盤づくりの推進

◎組織的指導体制の確立

- ・焦点化した共通実践「そろえる・やりきる・確かめる」の推進
- ・教材・教具の共有化「学年で・学校で・年度を超えて」の推進
- ・教師が学びあうことができる環境づくり
- ・ベテラン・中堅・若手それぞれが持ち味を発揮できる雰囲気づくり

◎温かい学級づくり

- ・生徒指導の三機能「自己決定・自己存在感・共感的人間関係」を大切に学級づくり

家庭と連携した取組

(1) 規則正しい家庭生活の習慣化

- ・テレビゲームやDVDを視聴する時間を決めるなど、生活習慣を整えるために話し合う。
- ・携帯電話、スマートフォンについて、その所持も含め、話し合う。
- ・決まった時間に起床、就寝すること、朝ごはんをきちんと食べることを継続し、生活習慣を安定させる。

(2) 家庭学習の習慣化

- ・時間と場所を決めて、毎日きちんと家庭学習に取り組むように意識づけたり、励ましたり、ほめたりする。

(3) 将来のことや夢などについての語らい

- ・夢や希望について、普段から子どもの話をよく聞き、話し合い、子どもが将来について、前向きな考え方ができるようにする。